

令和6(2024)年度 とちぎネットアンケート結果

第12回 薬物乱用に関する意識について

1 調査目的

「栃木県薬物の濫用の防止に関する条例」に基づき策定している「とちぎ薬物乱用防止推進プラン(2期計画)」が令和7年度で終期を迎えるため、次期プランを策定する必要があります。

そこで、次期プラン策定のために必要な、県民の薬物乱用に関する意識等を把握することを目的として本調査を実施します。

(担当課:保健福祉部 医薬・生活衛生課)

2 調査概要

(1) 調査対象者

822名 (とちぎネットアンケート協力者)

(2) 調査期間

令和6(2024)年12月3日～12月16日

(3) 調査方法

電子メールにより周知・回答依頼。電子申請により回答

3 回答者属性

回答数 509 名 (回答率61.9%)

(1) 男女別内訳

性別	回答者数	構成比
男性	214	42.0 %
女性	289	56.8 %
未回答	6	1.2 %
計	509	

(2) 年代別内訳

年代	回答者数	構成比
10代	2	0.4 %
20代	12	2.4 %
30代	32	6.3 %
40代	130	25.5 %
50代	139	27.3 %
60代	125	24.6 %
70代以上	69	13.6 %
計	509	

(3) 地域別内訳

地域	回答者数	構成比
県央	249	48.9 %
県南	143	28.1 %
県北	117	23.0 %
計	509	

(注)

(1) 調査結果に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

(2) 割合を百分率(%)で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示。四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。

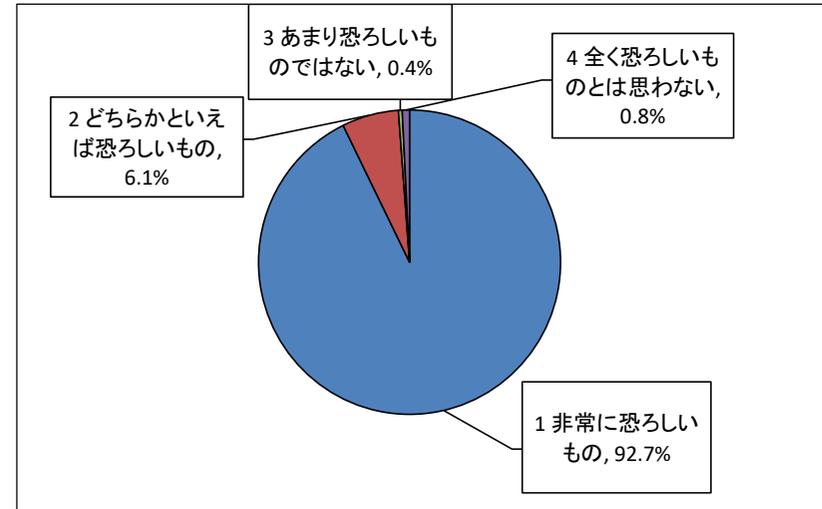
(3) 図表中の語句は、表記を短縮・簡略化している場合があります。

4 調査結果

問1 あなたは、覚醒剤についてどう思いますか。最も近いものを選んでください。
(1つ回答)

	構成比	回答数
1 非常に恐ろしいもの	92.7%	472
2 どちらかといえば恐ろしいもの	6.1%	31
3 あまり恐ろしいものではない	0.4%	2
4 全く恐ろしいものとは思わない	0.8%	4

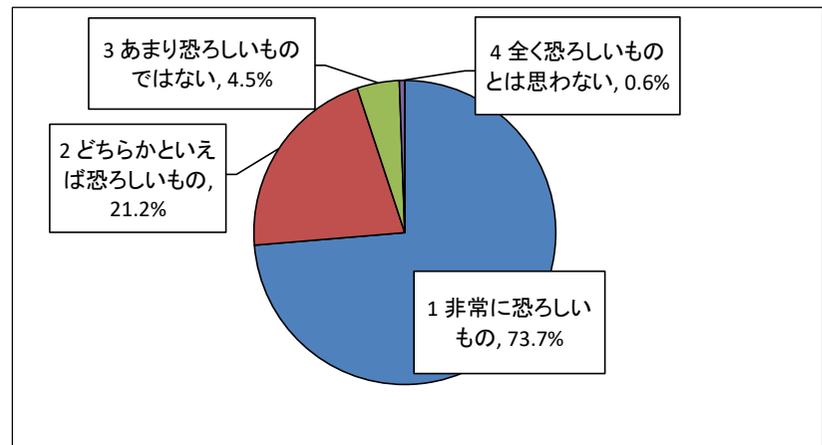
(n = 509)



問2 あなたは、大麻についてどう思いますか。最も近いものを選んでください。
(1つ回答)

	構成比	回答数
1 非常に恐ろしいもの	73.7%	375
2 どちらかといえば恐ろしいもの	21.2%	108
3 あまり恐ろしいものではない	4.5%	23
4 全く恐ろしいものとは思わない	0.6%	3

(n = 509)



問3 (問2で選択肢3又は4を選んだ方にお聞きします。)

あなたが、大麻についてあまり恐ろしいものと思わない理由は何ですか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

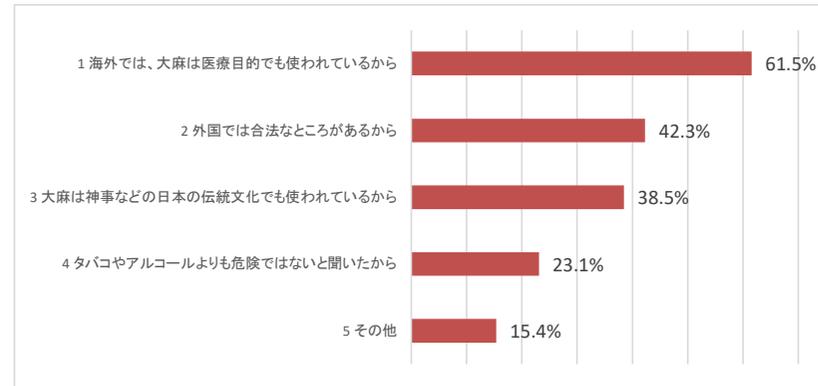
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 海外では、大麻は医療目的でも使われているから	61.5%	16
2 外国では合法なところがあるから	42.3%	11
3 大麻は神事などの日本の伝統文化でも使われているから	38.5%	10
4 タバコやアルコールよりも危険ではないと聞いたから	23.1%	6
5 その他	15.4%	4

(n = 26)

【その他の主な意見】

- ・恐ろしいものではなく、使用すると危険なものであると思っているから。
- ・タバコも大麻と同じように依存性があると思うから。



問4 あなたが、若者に対する薬物乱用防止の啓発方法として、効果的と思うものは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

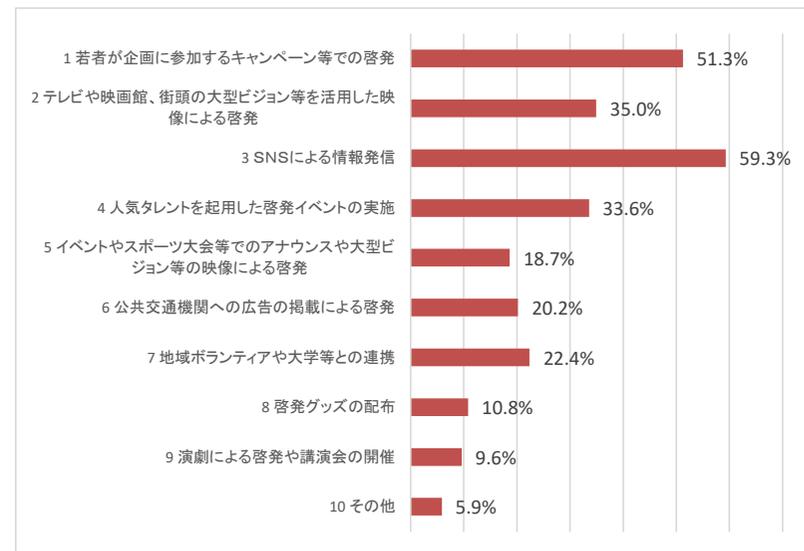
(3つまで回答)

	構成比	回答数
1 若者が企画に参加するキャンペーン等での啓発	51.3%	261
2 テレビや映画館、街頭の大型ビジョン等を活用した映像による啓発	35.0%	178
3 SNSによる情報発信	59.3%	302
4 人気タレントを起用した啓発イベントの実施	33.6%	171
5 イベントやスポーツ大会等でのアナウンスや大型ビジョン等の映像による啓発	18.7%	95
6 公共交通機関への広告の掲載による啓発	20.2%	103
7 地域ボランティアや大学等との連携	22.4%	114
8 啓発グッズの配布	10.8%	55
9 演劇による啓発や講演会の開催	9.6%	49
10 その他	5.9%	30

(n = 509)

【その他の主な意見】

- ・親世代への再教育も必要である。
- ・学校で薬物の危険性を正しく教える必要がある。

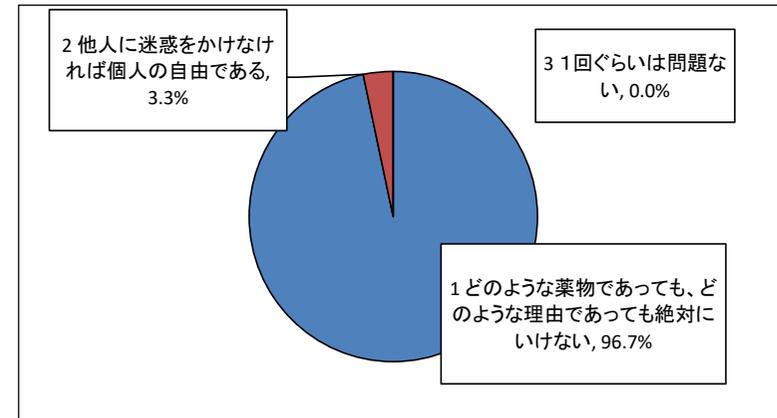


問5 あなたは、薬物乱用することについて、どう思いますか。次の中から最も近い気持ちを選んでください。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 どのような薬物であっても、どのような理由であっても絶対にいけない	96.7%	492
2 他人に迷惑をかけなければ個人の自由である	3.3%	17
3 1回ぐらいは問題ない	0.0%	0

(n = 509)

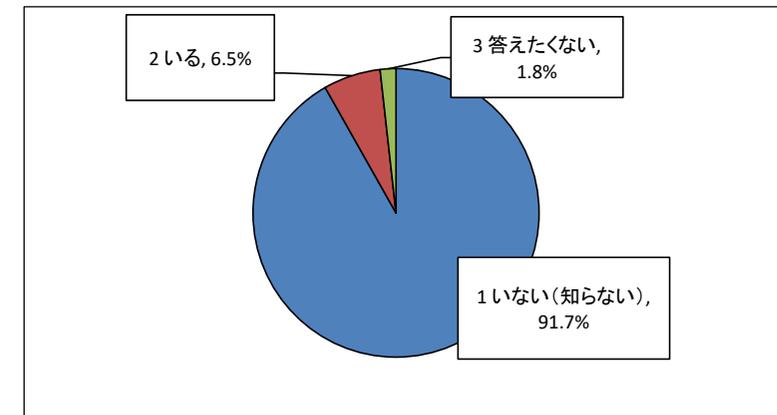


問6 あなたは、自分の身近に薬物の乱用を1回でも行ったことがある人がありますか。

(1つ回答)

	構成比	回答数
1 いない (知らない)	91.7%	467
2 いる	6.5%	33
3 答えたくない	1.8%	9

(n = 509)



問7 あなたは、家族や友人などあなたの周りに薬物を乱用している人がいた場合どうしますか。最も近いものを選んでください。

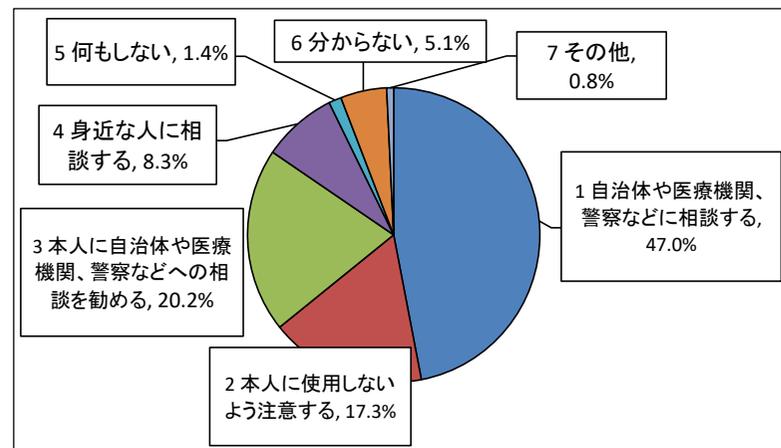
(1つ回答)

	構成比	回答数
1 自治体や医療機関、警察などに相談する	47.0%	239
2 本人に使用しないよう注意する	17.3%	88
3 本人に自治体や医療機関、警察などへの相談を勧める	20.2%	103
4 身近な人に相談する	8.3%	42
5 何もしない	1.4%	7
6 分からない	5.1%	26
7 その他	0.8%	4

(n = 509)

【その他の主な意見】

- ・まず、本人の話を先入観を持たずに聞く。
- ・家族には法律違反であるからやらないよう注意する。



問8 あなたが、薬物の危険性などについて知りたいと思ったとき、どのように調べますか。次の中からいくつでも選んでください。

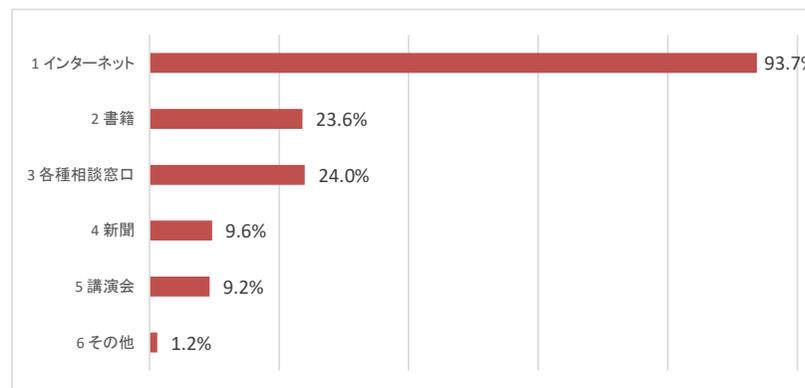
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 インターネット	93.7%	477
2 書籍	23.6%	120
3 各種相談窓口	24.0%	122
4 新聞	9.6%	49
5 講演会	9.2%	47
6 その他	1.2%	6

(n = 509)

【その他の主な意見】

- ・SNSで調べる。
- ・公共施設に設置されている資料で調べる。



問9 あなたが、薬物に関する相談窓口として聞いたことがある機関を、次の中からいくつでも選んでください。

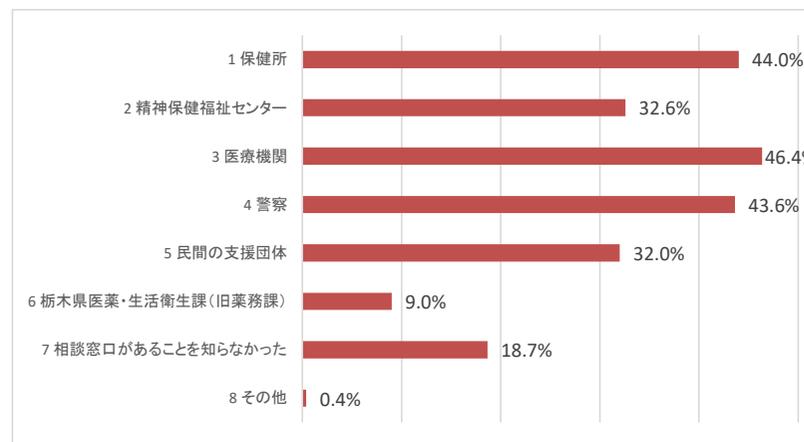
(複数回答可)

	構成比	回答数
1 保健所	44.0%	224
2 精神保健福祉センター	32.6%	166
3 医療機関	46.4%	236
4 警察	43.6%	222
5 民間の支援団体	32.0%	163
6 栃木県医薬・生活衛生課(旧薬務課)	9.0%	46
7 相談窓口があることを知らなかった	18.7%	95
8 その他	0.4%	2

(n = 509)

【その他の主な意見】

- ・メールやLINE等で相談できる。



問10 あなたが、薬物乱用を防ぐために、県に力を入れてほしいことは何ですか。主なものを次の中から3つまで選んでください。

(3つまで回答)

	構成比	回答数
1 暴力団や不良外国人などの密売人の取締り	75.6%	385
2 薬物乱用者に対する取締り	48.3%	246
3 青少年に対する学校での啓発活動	54.8%	279
4 薬物乱用の実態把握	25.3%	129
5 薬物に関する相談体制の充実	22.0%	112
6 薬物依存症者の再乱用防止対策の充実	27.7%	141
7 薬物依存症者の社会復帰の支援	20.6%	105
8 分からない	1.2%	6
9 その他	1.4%	7

(n = 509)

【その他の主な意見】

- ・ネット広告を利用した啓発活動
- ・薬物の相談窓口に関する周知

